



(様式第1号)

平成 28 月 5 月 25 日

認定介護福祉士認証・認定機構

理事長 大島 伸一 様

領 域 名 : ⑧マネジメントに関する領域

科 目 名 : ⑧-3 介護業務の標準化と質の管理

単 位 数 : 2 単位

認証申請する研修の名称 : 認定介護福祉士養成研修

団体名 : 公益社団法人長野県介護福祉士会

団体事務所の所在地 : 〒 380-0928

長野県長野市若里 7-1-7

電話 : 026-223-6670

FAX : 026-223-6679

E-mail : sakai@kaigo-nagano.jp

下記書類を添えて上記科目に対する研修の認証を申請します。

団体代表者 : (公社) 長野県介護福祉士会

会長 畠山仁美 

申請責任者 : 酒井 良育

記

○認定介護福祉士認定研修認証申請書 (別紙 1 ~ 3)

<機構使用欄>

受付	
確認	
委員付託	
追加連絡	
評価報告	
理事会承認	
認証番号	

(別紙2) 認定介護福祉士研修認証

認証申請科目に対する研修の内容

申請対象の領域	マネジメントに関する領域	
科目名	介護業務の標準化と質の管理	
(1) 提供する研修について		
研修名	認定介護福祉士養成研修	
教育目的	・自職場において実践されている介護業務を整理し、サービスの質の評価と改善に向けた検討を行うことができるようにする	
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・サービスの質の評価の枠組みに関する基礎的な概念について概説できる。 ・プログラム評価の考え方について概説できる。 ・論理的思考に基づいて実践を整理・記述することができる。 ・上記を踏まえたうえで、自職場の実践を科学的・客観的に記述、評価し、サービスの質の改善に向けた検討、業務の標準化に向けた実践の基準づくりや実践の組織の検討を行うことができる。 	
研修内容（研修プログラム）	含むべき内容	研修プログラム
	<ul style="list-style-type: none"> ○ヒューマンサービスの特性 ○サービスの質の評価の枠組み <ul style="list-style-type: none"> ・ストラクチャー、プロセス、アウトカムの考え方 ・プロセス評価とアウトカム評価 ・技術的部分（科学的根拠）と対人関係的部分 ・既存の「評価」の意味と意義（第三者評価、報酬の加算・減算など） ○実践の記述と分析 <ul style="list-style-type: none"> ・プログラム評価の考え方（インパクト理論、プロセス理論、フィディリティ評価等） ・経験学習に基づく実践の言語化、構造化、抽象的概念化、（演習含む） ・論理的思考に基づく自職場実践の記述と構造化、評価と改善策の検討（課題学習と演習） ○介護業務の標準化と管理 <ul style="list-style-type: none"> ・対人援助における標準化の意味、サービス標準、ケアミニマム ・介護業務基準、業務と実践の捉え方（演習含む） ・指導的立場にある者の職務（内省支援、業務支援、 	<ul style="list-style-type: none"> ○事前課題①（2時間） <p>講師が提示した介護実践の事例をもとに、介護実践の質をどのように評価できるかについて、自身の考えをA4・1枚でレポートする。いくつかの参考文献を合わせて提示する。</p> ○ヒューマンサービスの特性と質の評価（4時間） <p>（講義）形のある商品と比べた時にサービスには財としてどのような特性があるのか、そのなかでヒューマンサービスにはどのような特性があるか。 （講義）ドナベディアンモデルの説明、ストラクチャー・プロセス・アウトカム評価、介護報酬の構造（ストラクチャーからプロセス、アウトカムへ）、評価の目的、実践の改善に資する手法としてプロセス評価の有効性を理解する。 （演習）講師が提示した事例（介護報酬の構造、例えば栄養マネジメント、重度者対応、看取り）をもとに、報酬による評価の構造を理解し、プロセス評価やアウトカム評価の重要性を理解する。次いで、プロセス評価とアウトカム評価の利点や課題を議論し整理する。</p> ○事前課題②（3時間） <p>自分の属する組織での実践を、ケースに沿って具体的に記述し、A4・1枚にまとめる（実践内容は、コンチネンスケア、食事ケア、看取りのいずれかとし、研修生の職位や分野、初回の講義、事前課題①の内容を踏まえて決定する）。</p> ○実践の構造的な記述（6時間） <p>（講義）実践の質の向上においてサービスの標準</p>

	<p>精神支援等)、学習する組織の重要性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・可塑性を行動レベルではなく思考レベルに求めるマニュアルや手順書のあり方、実践の基準づくり、実践の組織化のあり方(演習含む) 	<p>化が不可欠であることを理解したうえで、実践と業務の違い、業務基準、指針・マニュアル・手順書の違いなどを理解する。実践の構造的な記述(言語化、抽象的概念化、構造化)なしに継続的な質の改善が図れないことを理解し、記述に有益なプログラム評価の考え方を学ぶ。</p> <p>(演習) 事前課題②をもとに、プロセス理論に基づいて実践の構造的な記述をグループ(4~6人)で行う。事例を出発点としながら、個別具体的な事例から離れて実践を管理的な視点で記載することが、サービスの標準化、業務基準、ケアミニマム、ルール・ロール・ツールの考え方に通ずることを理解する。記述において経験学習理論が有益であることを理解する。</p> <p>○事前課題③(6時間)</p> <p>演習の続きをグループ単位で行い、プロセス理論をまとめる。作成したプロセス理論をもとに、サービスの質に関する評価項目を検討し、レポートにまとめる。プロセス理論はグループ単位で提出、評価項目は個人単位で提出。</p> <p>○評価項目の作成と質の管理(5時間)</p> <p>(講義) フィディリティ評価、パフォーマンス測定、自己評価と第三者評価の関係性を理解する。規範として定義された実践のプロセスを組織化する方法、部下の育成方法について学ぶ。</p> <p>(演習) 提出された事前課題③を用いながら、評価項目の作成を行う。</p> <p>○事後課題(4時間)</p> <p>自分の属する組織での実践を記述し、実践の質の評価項目を具体的に検討するとともに、実践の改善のために必要な組織化計画をまとめる。</p>
<p>研修方法</p>	<p>■集合研修 ■課題学習</p> <hr/> <p>○集合研修講義と演習を組み合わせて行う。</p> <p>○課題学習は事前課題①~③(詳細は上述)、事後課題①(詳細は上述)。事前課題①は初回集合研修前に提出。事前課題②は第二回集合研修前に提出。事前課題③は第三回集合研修前に提出。すべての評価は担当講師が行い、各集合研修に活かす。</p>	
<p>研修時間</p>	<p>30 時間(集合研修 15 時間、課題学習 15 時間)</p>	
<p>修了要件</p>	<p>○全課程の出席を要する。公共交通機関の影響、冠婚葬祭、担当する利用者の急変といったやむを得ない事情による遅刻、早退については合計 30 分(遅刻、早退それぞれ 15 分)を上限として認める。(レポート課題なし) 1 日のプログラムのうち、始めの 30 分を超える遅刻、終わりの 30 分を超える早退であって 120 分以内である場合、レポート課題による代替を可能とする。120 分を超える遅刻、早退の場合は、ビデオ学習による補講を行ったうえでレポート課題を提出するものとする。また、各コマにお</p>	

	<p>いて合計 15 分以上の離席があった場合には講義・演習の内容を補うレポート課題を提出するものとする。</p>
講師要件（講師の選定基準）	<ul style="list-style-type: none"> ・当該科目における十分な知識・専門性を有し、講師等の教育経験がある者 ・補助者についても当該科目における十分な知識・専門性を有し、講師等の教育経験がある者
(2) 受講者について	
受講対象（受講要件）	<p>単位取得できるのは介護福祉士資格を有する者であること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ I 類を修了していること。 ・ ユニットリーダー又はサービス提供責任者以上の職歴が 3 年以上の者が望ましい。
修了評価	<p>修了評価は、事後課題「自分の属する組織での実践を記述し、実践の質の評価項目を具体的に検討するとともに、実践の改善のために必要な組織化計画をまとめる。」において、「論理的思考に基づいた記述となっている」、「研修で学んだ理論が活用されている」の視点により、A～D の 4 段階で評価する。D 評価となった場合、別途課されるレポート（介護業務の標準化と管理について A4 用紙 1 枚にまとめる）を提出する。なお、集合研修を欠席した場合、課題が提出されていても修了を認めない。</p>
(3) 研修の環境条件	
定員（講師の配置基準）	<p>30 名（講師 1 名）演習時も同じ講師が行う。</p>
開催場所（都道府県）	<p>JA 長野県ビル（長野県長野市）</p>

(別紙 3) 認定介護福祉士研修認証

認証申請する研修の実施体制等 (届出事項)

(1) 研修の実施予定	
実施日	① 平成 30 年 3 月
	②
	③
開催場所 (会場)	① 長野県長野市 JA 長野県ビル
	②
	③
(2) 講師	
担当、氏名及び略歴	担当する講義等 介護業務の標準化と質の管理
	井上由起子 氏 日本社会事業大学専門職大学院教授、工学博士、 「療養病床のあり方等に関する検討会」構成員 (厚労省)、 「医療介護総合確保促進会議」構成員 (厚労省)、「杉並区 総合的な住まいのあり方に関する審議会」委員 (杉並区)、 「福祉人材確保対策検討会」構成員 (厚労省) 主な著書 「介護福祉の組織・制度論」光生館、共著、「私 たちの住まいと生活」彰国社、共著、「実践事例から読み 解くサービス付き高齢者向け住宅」中央法規出版、共著、 「いえとまちのなかで老い衰える」中央法規出版、「個室 ユニット型施設計画ガイドライン」中央法規出版、共著、
	担当する講義等 修了評価 井上由起子 氏 (日本社会事業大学専門職大学院教授) 履歴等は同上
(3) 実施体制	
研修の企画運営の組織 (担当部局・人員)	研修委員会 (非常勤: 17 名) 事務局 (担当事務局員、常勤: 4 名) 研修委員会において各科目の教育目的や到達目標を確認 し、担当講師と科目間の連関や留意点について共有する。 また、できる限り研修委員会の委員が研修を見学し、研修 内容を評価するとともに、随時、研修の見直しを図る。
研修の企画運営に関する 諸規程	研修委員会設置要綱
研修管理責任者職名	副会長
研修管理責任者氏名	原千香子
機構問合先部署	長野県介護福祉士会事務局
機構問合先担当者氏名	酒井良育
機構問合先電話番号/FAX	026-223-6670 FAX 026-223-6679
機構問合先 e-mail アドレス	sakai@kaigo-nagano.jp

受講問合せ先部署	長野県介護福祉士会事務局
受講問合せ先担当者氏名	酒井良育
受講問合せ先電話番号/FAX	026-223-6670 FAX 026-223-6679
受講問合せ先 e-mail アドレス	sakai@kaigo-nagano.jp
(4) 研修履歴の管理体制	
受講者への付与単位部門	長野県介護福祉士会事務局
受講履歴の管理方法	<ul style="list-style-type: none"> ○紙媒体及びデータによる台帳管理 ○外付けディスクにバックアップデータを保管する。 ○データ保存期間は10年間とし、その後は外付けディスクにてデータを保管する。 ○個人情報の取り扱いにあたっては、法律を遵守する。
受講履歴の証明	全課程を修了した者には、会長名による修了証書を発行する。
管理責任者氏名	土屋一都(事務局長)
管理担当者氏名	酒井良育(担当の常勤職員)